



特集1 「岡山のCOOL 発見!」第2回	P ②
特集2 災害時多言語支援センター設置運営訓練	P ②
特集3 平成30年度 留学生等による 国際理解学習支援プログラム	P ③
事業報告 海外マガジンリサイクル ほか	P ④
私、岡山に住んでいます フランス アナイス・ファルジアさん (高梁市国際交流員)	P ⑦
世界の文化 ～医療事情編～	P ⑧
Think Global, Act Local ～県内国際団体のご紹介～ 総社インターナショナルコミュニティ	P ⑧
報告 平成30年度「国際理解学習プラン講師派遣」 事業報告 ほか	P ⑨
語学講座 日本語講座 ほか	P ⑩
イベントカレンダー おかやまフェアトレードデー! ほか	P ⑩

おかやま 国際交流



パネルディスカッションの様子



AEDでの蘇生訓練



毛布で作った応急担架で人を運ぶ

「岡山のCOOL 発見!」第2回 — 岡山の自然災害から学ぶ —

11月4日(日)

共催：一般社団法人大学女性協会岡山支部、岡山県、岡山市



こちらのQRコードを読み取り、
動画をご覧ください。

平成30年7月豪雨をふり返るとともに、今後、発生が予測される南海トラフ地震等の大規模災害に備え、岡山県、岡山市の危機管理部門と連携し、大規模災害を想定した参加型の避難所体験とパネルディスカッションを開催しました。午前の避難所体験では、県災害救援専門ボランティアや地域共生サポーターをはじめとする44名の参加者が、段ボールベッドの組立てやけがの応急処置を体験しました。午後のパネルディスカッションには49名の参加があり、災害時の外国人支援の備えや課題等について考えました。

(詳細は、次ページをご覧ください。)

「岡山のCOOL 発見!」第2回 —岡山の自然災害から学ぶ—

パネリスト

総社市役所市民生活部人権・まちづくり課国際交流推進係 主事 タン シュンワイ 譚 俊偉氏(ブラジル出身)
 会社員 井田 パトリシア氏(ブラジル出身)
 川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科 教授 キョウ ハ 姜 波氏(中国出身)
 NPO法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 明木 一悦氏

司会

岡山県国際交流協会 評議員/重井医学研究所 名誉所長/理学博士 沖垣 達氏
 一般社団法人大学女性協会岡山支部 国際委員長/岡山県人権政策審議会委員 角田 みどり氏

午前の避難所体験では、はじめに岡山市消防局西消防署からAED(自動体外式除細動器)の操作や、新聞紙・食品用ラップフィルム等身近にあるものを利用した骨折処置やおしめ作り、上着や毛布を使っての応急担架作りの説明を受けました。



岡山市消防局による説明の様子

続いて、グループに分かれて段ボールベッドや段ボール間仕切りの組立てを行いました。心肺停止で意識を失ったり、骨折をしたりなどの役割を演じた参加者には、同じグループの人が応急処置を施す訓練を行いました。



食品用ラップフィルムで骨折箇所を固定する参加者

午後のパネルディスカッションでは、平成30年7月豪雨災害で被害を受けた総社市の被害状況や被災外国人の支援について、総社市職員の譚 俊偉氏から報告がありました。帰宅できなくなった外国人従業員のところに説明に向かうなど自身の多言語で



段ボール間仕切りの組立て

の支援活動の報告に加えて、真備町にボートで向かい人々を救助したり、がれきの撤去作業を手伝ったりと、多くの外国人が支援活動を行った話が紹介されました。

大規模災害時における外国人支援の課題について、パネリストから「災害時に情報を共有できるようにネットワークを構築する」(姜氏)、「災害時に助け合えるように、日頃から外国人も含め地域で交流する」(井田氏)、「『外国人の見える化』が重要。国際交流パーティーやバザーなどを開催して、地域に住んでいる外国人と集まり、互いを知ることが大切」(明木氏)との意見があげられました。



譚 俊偉氏(左端)によるプレゼンテーション

明日にも起こりうる大規模災害に備えて、「自分の命は自分で守る」ために防災力を高めていくこと、そして日頃から外国人と顔の見える関係を築き、災害時には声を掛けることができるようにしておくことが大切であると学びました。



意見を述べる井田パトリシア氏(中央)

災害時多言語支援センター設置運営訓練

11月4日(日)



訓練風景

災害時多言語支援センターの主な活動は、災害時の外国人の被災状況やニーズの把握、必要な情報の収集と整理、多言語による情報提供、電話や窓口での相談対応、災害救援

加しました。訓練では、パソコンやスマホなどのIT機器とインターネットを使い、災害情報や救援情報の収集と整理から、情報を多言語化して発信するまでの作業の具体的な手順や改善点などを確認しました。

緊急時には、情報の正確性はもとより迅速性も求められます。時間のかかる翻訳作業の一方で、情報を外国人にもわかりやすい「やさしい日本語」に直す訓練も行いました。「やんしす(やさしい日本語支援システム)」というソフトウェアを使って文章を検証し、修正する作業も全員で体験しました。



平成30年度 留学生等による 国際理解学習支援プログラム



11月27日(火) 余野小学校
子どもたちがけん玉を教えました

概要

このプログラムは、県内の大学に在学する留学生を小学校に講師として派遣し、文化紹介や遊びを通して子どもたちと留学生が相互に異文化理解を図るものです。直接的な触れ合いから、子どもたちはさまざまな文化を肌で感じ、世界との関わりを学びます。世界への関心を深めることで、広い視野を持つこと、また外国語学習の意欲向上にもつながることを期待し、今年度も10校で授業を行いました。



こちらのQRコードを読み取り、動画をご覧ください。

活動事例

7月12日(木)

和気町立佐伯小学校 6年生 17名

派遣留学生

ヌル・フィトリアンティ・アプリリアさん(インドネシア)
エルセウディ・アブデラティフさん(エジプト)
鄭 晨潔さん(台湾)

授業の様子

留学生が世界地図や画像を使って子どもたちに自国紹介をしました。子どもたちはさまざまな文化紹介に聞き入り、たくさんメモを取りました。驚きの声や感心する声、「聞いたことある!」といった反応が見られ、留学生の文化を身近に感じることができました。子どもたちは先生と一緒に温かく留学生を迎え積極的に交流し、わきあいあいとした授業となりました。



文化紹介の様子

12月14日(金)

井原市立高屋小学校 5年生 35名

派遣留学生

アブドゥラエフ・ウルグベクさん(ウズベキスタン)
張 瀟娟さん(中国)
イスラム・MD・マノワルさん(バングラデシュ)

授業の様子

留学生は画像や動画を使って文化を紹介し、張さんは伝統的な歌も披露しました。遊びの時間には、一人ずつ各国の言葉であいさつをかわし、じゃんけんをして、最後に留学生がサインやメッセージを書きました。ウズベキスタン語、中国語、ベンガル語での交流や、英語で好きなものを質問し合う中で、子どもたちは広い世界を体験することができました。



各国の言葉であいさつをしました



子どもたちにサインやメッセージを書きました

9月14日(金)

矢掛町立三谷小学校 矢掛町内4年生 83名の合同授業(2校に分かれて実施)

派遣留学生

三谷小: トリアンティカ・インダーさん(インドネシア)
金 聖訓さん(韓国)
小田小: アルイーサ・オラーさん(シリア)、趙 涵捷さん(中国)

授業の様子

矢掛町で年に数回行われる合同授業に参加し、2校に分かれて交流授業を行いました。三谷小では国紹介に加え、トリアンティカさんはインドネシアのじゃんけんを紹介し、金さんは韓国の踊りを伝授しました。小田小では、シリアの多様な文化や人々の暮らしについてアルイーサさんが紹介し、子どもたちは新たな発見に湧きました。中国の八大料理の紹介では「おいそう!」と盛り上がり、さまざまな質問が飛び交いました。小学校の垣根を越えた交流に参加し、多くの子どもたちが留学生の国の文化を学ぶことができました。



インドネシアのじゃんけん挑戦

12月18日(火)

新見市立思誠小学校 6年生 67名

派遣留学生

ハサン・ガムキンさん(シリア)、張 瀟娟さん(中国)

授業の様子

子どもたちは興味津々な様子で留学生の文化発表に聞き入りました。ハサンさんの発表では、偉大な女王による古代帝国の歴史や、休みは金・土曜で日曜は学校があるといった生活習慣を聞き、また、ホワイトボードに右から左へアラビア文字を書く様子を見て驚きました。張さんによる伝統芸能「変臉(変面)の紹介では、臉譜(お面)が変わるたびに「すごい!」「なんで!」と盛り上がりました。遊びの時間ではアラビア語でのじゃんけん列車を楽しみました。



アラビア語でじゃんけん列車

海外マガジンリサイクル

11月5日(月)～17日(土)

平成22年度の当協会20周年事業の一環として実施したイベントでしたが、「継続してほしい」との要望から続いているイベントです。今年度も海外マガジン(Time、National Geographic、Veja、読者、人民中国など)と不要になった書籍を岡山市のみならず、倉敷市、総社市などから

の来館者延べ34名に138冊譲渡しました。

これらの海外マガジンや書籍が語学学習や国際感覚を養うことや、国際的視野を広げるために活用され、今後の国際交流・国際貢献などへの活動参加につながっていくことを願っています。

日本語ボランティアスキルアップ研修会

11月10日(土)

講師：YOKE 横浜市国際交流協会 日本語教室アドバイザー 山崎 佳子氏



講師 山崎 佳子氏(中央)

県内の日本語指導者を対象に「話がはずむ授業をめざして」と題して開催し23名が参加しました。まず始めに全員で滑舌練習を行ったあと、テーマである「話がはずむ授業」はどのような方法なのかを教わりました。トピック(学習者が関心を持っている話題で、関連した語い、表現、背景事情など)を中心にした授業の進め方で学習者との話を発展させる方法や、Can do(日本語で何がどれだけできるようになるかという学習目標、到着目標、行動目標)を設定して学習する授業

の進め方について学びました。その後、学習者の発話を活発化する練習問題や場面設定をしたロールプレイングの練習なども行いました。

参加者からは「文型シラバスにはない活動的な授業ができそうだ」「いつも話がはずむ授業をめざしているの

ので、具体的な内容で参考になった」などの感想が寄せられました。この研修会では、学習者の生活背景に沿った授業をすることで、

実用性のある日本語を教えることができると知りました。



ワークショップの様子

英語による絵本の読み聞かせ会 — 特別編 —

11月18日(日)

講師：岡山大学留学生 ヌル・フィットリアンティ・アプリリアさん(インドネシア出身)

岡山大学留学生 ハサン・ガムキンさん(シリア出身)

英会話講師 岸本ロベルさん(フィリピン出身)

岡山県国際交流協会ボランティア 阿部 茉莉さん、綾部 智春さん、井場 俊栄さん



講師の皆さん

最初の絵本は「“Slowly, Slowly, Slowly,” said the Sloth」でした。ヌルさんが英語、阿部さんが日本語で表情豊かに読み聞かせました。主人公のナマケモノの動きに合わせて繰り返されるキーワード“Slowly”を、抑揚をつけて読み、後半は子どもたちも自然にキーワードを発していました。

2冊目はクリスマスが舞台の「DREAM SNOW」。英語は岸本さんが、日本語は井場さんが担当しました。登場する動物の鳴き声を一緒にまねしたり、数字のカウントを一緒にし

たりと、子どもたちは積極的に参加しました。

続く交流会では講師と参加者は会話を楽しみつつ、英語によるヌルさんのインドネシア紹介、ハサンさんのシリア紹介にあわせて、綾部さんの日本語を聞きました。人々のふだんの暮らしや特別な行事の様子、食べ物や有名な観光地など美しい画像が次々と映し出され、参加者から「知らない国のお話が楽しかった」「実際に行ってみよう」という声があがりました。

55名の参加者にとって、楽しみながら英語や他国の文化に触れる読み聞かせ会となりました。



ヌルさん(左)、阿部さん(右)による読み聞かせ

国際スポーツ交流会 (ピンポンde交流!)

11月24日(土)

講師：萩原卓球用具店 小山 裕司氏、中尾 久志氏、徳原 信智氏、古市 翔氏

米国、オーストラリア、韓国、台湾、中国、日本、香港出身の35名の参加者は、試合前からラリー練習や準備体操などで体を動かし、準備万端の状態で開催がスタートしました。

試合中は、点数が入ったときは喜び、点数を入れられると悔しがり、同じチームになった仲間と励まし合いながら全力で試合に臨みました。



審判中の講師

閉会式では、優勝、準優勝、銅賞に輝いたチームに参加者からの温かな拍手と、講師の小山氏からメダル、賞状、賞品が贈られました。残念ながら入賞できなかったチームは仲間とリベンジを誓いました。

参加者からは「さまざまな国の人と交流ができて楽しかった」「講師から指導を受けられてうれしかった」「卓球を習いたく

なった」などの感想が寄せられました。言葉や文化が異なっても、卓球を通して有意義な時間を共有したことで、友達や仲間になれたと実感できた交流会となりました。



試合の様子



全員で記念写真

地球市民講座 第1回

「幸せを呼ぶ国スウェーデンの福祉・労働そして日本の未来」

11月25日(日)

講師：株式会社舞浜倶楽部 取締役社長 グスタフ・ストランドル氏

ナビゲーター：岡山県国際交流協会 評議員／重井医学研究所 名誉所長／理学博士 沖垣 達氏



グスタフ・ストランドル氏

スウェーデンの福祉文化を日本に伝える伝道師として活動しているグスタフ・ストランドル氏を招き、スウェーデンの高齢者福祉に対する社会・

理念の変化や、実際に舞浜倶楽部で行っているスウェーデン式認知症ケアについての講演会を行いました。

現在のスウェーデンの認知症ケアは極めて進んでいるが長い歴史があり今日に至っていることや、家族だけでなく社会全体として高齢者や障がい者を支えているスウェーデンの福祉の現状を知り、日本の福祉について改めて考える機会と



ナビゲーター沖垣氏(右)の進行による質問コーナーの様子

なりました。沖垣氏が司会を担当した質疑・応答のコーナーでは、スウェーデンの税金の運用や政治参加、最近の難民問題などさまざまな質問や意見が出て、参加者の熱意が感じられました。

56名の参加者からは「スウェーデンは日本と同じく貧しいところからスタートしたと聞き、日本も希望が持てると思った」「福祉国家といわれるまでになったスウェーデンの歴史を聞き、絶対に諦めず、常に理想を目指して努力することの大切さを痛感した」といった感想が寄せられました。



講演会の様子

地球市民講座第2回

「建築家 妹島和世氏特別講演会 —環境と建築—」

12月8日(土)

講師：妹島和世建築設計事務所／SANAA代表 妹島 和世氏

透明感あふれる作品で世界で愛されている建築家、妹島 和世氏を招き、「環境と建築」をテーマに講演会を行いました。妹島氏は、これまでに手掛けた建築物を紹介しながら、それぞれの作品で大切にしてきたことやコンセプトなどを大変わかりやすく説明しました。妹島氏の環境への配慮や地域との融和に関する哲学を聞きながら、妹島氏の多くの作品を知ることのできた素敵な講演でした。



講師 妹島 和世氏

の質問に大変丁寧に答えました。「地域の環境を把握し、町の伝統を守りながら創造していく建築物こそ理想的である」ということに多くの人が共感しました。

犬島「家プロジェクト」や「福武Jホール」など参加者に親しみのある建築物の話も出て、「身近にある妹島さんの建築物の素晴らしさが分かった。ゆっくり見てみたい」「斬新でありながらも周囲の環境に溶け込むようにつくられる建築物の話に感動した」との感想が寄せられました。

10代から70代まで幅広い年齢層の参加者81名は、その土地の環境に合わせて建築し、地域住民の生活を大事にしている妹島



講演会の様子

氏の話を中心に聞きました。講義の後には、耐震や曲線など設計についての専門的な質問や、妹島氏の発想の源など



集合写真

留学生と県民との交流会 特別編

12月16日(日)

講師：岡山大学留学生／

カジミ・アブドゥル・ハキムさん（アフガニスタン）、ジュウ・エミリーさん（米国）、ブオマル・ハニ・モハムッドさん（イエメン）、ゼラファ・メリタさん（英国）、ベルトリ・カテリーナさん（イタリア）、テスファイ・アマニエルさん（エチオピア）、アチャポン・ダニエルさん（ガーナ）、オモロ・アディアボ・イヴリンさん（ケニア）、ンドシロ・ホイットニーさん（タンザニア）、シャヒ・サビティリさん（ネパール）、ムコセ・メイ・アキコさん（フィリピン）

岡山在住の留学生と県民との交流会を開催しました。

留学生の文化発表では、国の概要や国旗の意味、伝統料理や民族衣装、観光名所などに加え、独特な魅力を紹介しました。



交流の様子
(右から2番目がタンザニア出身のホイットニーさん)

ジュウさんは文化の多様性や各地域の景観、クリスマス

の祝い方について、ンドシロさんは美しい大地と動物たちの国立公園、キリマンジャロなどの世界遺産について、ゼラファさんはクリスマス前のさまざまな催し物やエンターテイメントについて、オモロさんは豊かな植物や野生動物、ナイロビシティやマサイ族について、テスファイさんは壮大な大地や、有名なマラソン選手について紹介しました。

後半はベルトリさんが各地方の特色や歴史的観点から見たイタリアを、カジミさんはバーミヤン遺跡や伝統的な国技で

ある騎馬スポーツについて、シャヒさんはお祭りや自身の民族の伝統料理について、ムコセさんは独特な交通機関や人々の尊敬の表現について、アチャポンさんは鉱石などの豊かな資源やトウイ語について、ブオマルさんはあいさつなどの習慣や、特徴的な建築物を誇る都市「砂漠のマンハッタン」について紹介しました。

参加者60名とのグループトークでは、岡山での生活についてなどのさまざまな質問が飛び交い、クイズでは留学生が自国にちなんだ問題を出し、さらに知識が深まりました。世界のいろいろな地域からの留学生と直接触れ合うことで広い世界を肌で感じる事ができました。



集合写真

「私、岡山に住んでいます」 岡山で活躍する外国人をご紹介します

フランスの中東部に位置する都市・リヨン出身で、現在は高梁市役所で国際交流員として活躍するアナイスさんに、日本との出会いや国際交流員としての活動のお話を聞きました。

一故郷リヨンでの暮らし

出身地のリyonは人口50万人ほどの歴史の深い町です。旧市街には世界遺産のサン・ジャン大聖堂もあります。町の周りには山々が広がり、自然豊かで高梁市に似たところがあります。小さいときは、村の図書館でボランティアをしていた本が好きな母親の影響もあり、たくさん本を読んで過ごしていました。その後、リヨン第3大学で5年間日本語を勉強しました。

一日本・日本語との出会い

中学生の頃、テレビで日本のアニメーションを放送していました。その頃から日本語の持つ音の響きの美しさに興味を持ち、日本語はかわいいなと思っていました。高校生の頃、独学で勉強を始めました。本が好きで日本の文学にも興味があったので、小説は日本語で読みます。昭和の人気作家・獅子文六さんの「悦ちゃん」や「コーヒーと恋愛」、現代作家だと角田光代さんや江国香織さんも大好きです。

一高梁市に住むことになりました



備中たかはし松山踊りで浴衣を着るアナイスさん

大学院生の頃、日本へ行きたいという気持ちがどんどん大きくなっていきました。JETプログラムのホームページを確認していたところ、高梁市がフランス語の話せる交流員を探していることを知りました。2018年5月に、リヨンにあるアンパール高校と教育交流協定を締結し、2019年から高梁市内の高校との交流が始まるということでした。大好きな日本でお仕事ができるし、故郷のためにも活動できるので、これだと思い応募しました。



自分だけの色を探して
高梁市役所 国際交流員

アナイス・
ファルジアさん
フランス リヨン郡出身



高梁市について調べると大きな図書館もあったので、素敵だなと思いました。

一岡山での暮らしとこれから

教育交流協定を結んでいるリヨンや米国のトロイとのやりとりをはじめ、高梁市立図書館でフランス語講座や、子どもへの絵本の読み聞かせをしてい



休日に旅行へ行った京都での一枚

ます。生徒のみなさんとの交流はとても楽しくやりがいがあります。働きはじめて間もない頃は、文化や言葉の違いに戸惑うこともありましたが、フランス語にはない概念の「お疲れさま」の使い方もそうですし、くしゃみをした人に向かってフランス人は「À tes souhaits」(英語ではBless you)と言いますが、日本では存在しないですね。少しずつ、楽しみながら学んでいます。新しい言語や文化を学ぶと、視野が広がり、自分の考え方や物の見方も変わり、新しい発見があります。信号の色はフランスでは緑、日本では青と表現します。果たして本当の色は何色なのか、わからないですね。これからも先入観を捨てて、自分の中に新しいものを吸収し、日本とフランスの架け橋になればと思います。



フランス語講座の様子

国民皆保険やフリーアクセスなどの利点の一方で、救急車の不適正利用など問題点も抱える日本の医療。では、東南アジアのタイ、西ヨーロッパのベルギーの医療事情はどのようなもののでしょうか？

タイ



若井 ニッタヤーさん(ブリラム県出身)
心臓病センター榊原病院職員
(看護アシスタント)／滞在歴18年



タイでは、「ヘルス・ゴールド・カード」という国民の保険が近年ついに制度化され、公立の病院ではかなり医療費負担が軽くなりました。ただ、私立病院では適用されません。そのため、ただでさえ数が少ない公立病院にたくさんの患者が押し寄せ、待ち時間が非常に長くなります。待ち時間に耐えられない場合は高額な料金を払って私立病院を受診します。私は今岡山中、心臓病の治療で有名な私立病院で働いていますが、患者さんが保険を使って気兼ねなく受診する様子にタイの私立病院との違いを感じます。

入院するときは日本のように病院スタッフが世話をしないので、家族や友人の付き添いが必要です。入院中の食事は栄養管理が行き届いているメニューとはいええないため、周囲の人々からの差し入れが精神的にも大きな支えとなります。

救急車は都会に集中しており、慢性的な渋滞のため迅速な到着は難しいことが多いです。そこで緊急時は地域の人々が助け合って、患者を病院に送り届けてあげます。なんと、私が生まれた時、母は救急車を呼ばず、病院にも行かず、近所の出産経験のある女性たちにお手伝いしてもらって出産したんですよ！

このようにタイでは、家族や地域の人々の助け合いなしに暮らしていくのはなかなか難しいです。

ベルギー



ヴァンディングネン・ピーターさん
(メッヘレン出身)
英会話講師・翻訳家／滞在歴10年



ベルギーの医療水準は日本と同じくらいのレベルですが、システムには少し違いがあります。まず、日本では症状に合わせて受診するべき外来を選びますが、ベルギーでは誰にでも「ホームドクター」がいて、病気やけがの種類を問わずにまずはホームドクターに診てもらいます。そのうえで、ホームドクターが必要と判断すれば、もっと専門的で大きな病院を紹介されます。

緊急時は100番に電話をして救急車を手配します。日本のように無料ではありません。走行した距離に応じた高額な料金がかかるので、家族や友人が可能な限り車で送り届けます。救急車を呼ぶことを即決するのは、街で交通事故に遭遇するなど、本当に緊急を要する時です。

ベルギーでの入院は、非常に高額な費用を請求されます。そのためできるだけ短い滞在期間となるよう配慮され、出産の場合、2日間の入院が標準的です。そして医療スタッフの対応は事務的です。日本で初めて入院した時、入院期間が長いことと、医療スタッフからとても丁寧な看護を受けたことに私はとても驚きました。

ベルギーの医療で私が良いと思う点は、徹底的に個人情報を守られていることです。例えば待合室など、他の患者がいる前でスタッフから受診の理由や症状の詳細を尋ねられるようなことは決してありません。



総社インターナショナルコミュニティ

会長 譚 明美
連絡先 E-mail: sbcwish@gmail.com
Facebook: <https://www.facebook.com/sojabraziliancommunity>



団体概要

2010年7月18日に、地域の外国人から「自分たちもまちづくりに参加したい」との意見を受けて、ブラジル人を中心とする「総社ブラジリアンコミュニティ」(現在は改称)が設立されました。現在は岡山県内に暮らすブラジル、中国、フィリピン、韓国、インドネシア、ペルー、ベトナム、米国、パナマ、コスタリカ、日本などさまざまな国の人が集まり交流する団体です。総社市内外でのイベントを通して各国の文化を紹介し、多文化共生の推進に取り組んでいます。

活動紹介

行政からの情報提供を外国人コミュニティを通じて行うなど、行政との双方向の情報共有を行っています。また地域のコミュニティとの共同企画により毎年開催している、多文化共生イベント「そうじゃインターナショナルフェスタ」は、日本人住民と外国人住民をつなぐ架け橋となっています。

7月の西日本豪雨では、総社市が被災地になり、外国出身者も支援する側にまわりました。「外国人が災害弱者だと思われたくない。『支援される側』から『支援する側』に動こう」との強い思いで、メンバーは、地域のお年寄りの家の泥かき、がれきの掃除、支援物資の配達や避難所などでのボランティアを行いました。我々は全国にある他の外国人コミュニティとの連携があり、そのおかげで全国から何トンもの支援物資が、外国人だけではなく日本人も含めた被災者に届きました。



西日本豪雨災害チャリティイベントの様子



被災した家の片付けを行うメンバー

助成金に関するお知らせ



平成30年度「国際理解学習プラン講師派遣」事業報告

専門的知識と国際経験を有する県内のNGOを学校の授業の講師として派遣。6団体が県内12の小・中学校で学習プランを実施しました。

派遣団体	実施校	プラン名／実施内容
アジア農村協力ネットワーク岡山	玉野市立山田小学校 岡山市立七区小学校	【お米がつなぐ、世界の国々】 ジャポニカ米とインディカ米の料理実習を通して、世界の食文化について学ぶ場を提供した。
ダフェプロジェクト	岡山市立建部中学校 岡山市立福島小学校	【アジアの歌姫スリランカが教える とっておきのネパール】 ネパールで歌手として活躍する講師が、ネパールの歌を披露するとともに、国の基礎情報や教育制度について講義した。
(特活)AMDA社会開発機構	津山市立林田小学校	【参加型ワークショップで感じよう! 考えよう!世界と「わたし」】 世界の多様性を学ぶワークショップを実施し、児童は国際社会の一員としてとるべき行動について考えた。
(特活)岡山日本語センター	岡山市立福田中学校 玉野市立山田小学校	【お互いの言葉・文化を尊重して、多文化共生を考えよう】 岡山の国際社会の現状について講義し、世界の工芸品に触れながら在住外国人と児童・生徒が交流を図った。
岡山ユニセフ協会	岡山市立五城小学校 総社市立昭和中学校	【世界とつながる時間～私のとなりの人から～】 飲料水やトイレなど身近なものについてブルキナファソと日本の違いを説明し、世界に目を向けるきっかけをつくった。
NPO法人国際文化友好協会	岡山市立石井小学校 倉敷市立水島小学校 玉野市立宇野小学校	【知ることから始まる国際理解】 異文化への理解や心構えについてのワークショップを実施。5か国の留学生と児童が互いの文化紹介を行い、相互理解を深めた。

平成30年度「国際理解・協力活動等助成金」(NGOの活性化支援) 事業報告

民間の国際交流団体等の国際交流事業などを支援するため、下記9団体に助成を行いました。

団体名	事業名	実施内容
ダフェプロジェクト	在岡ネパール人のための無料生活相談	岡山県在住のネパール人を対象に無料生活相談窓口を運営した。
NPO法人岡山日本語センター(OJC)	OJC創立35周年記念誌発行事業	多文化共生社会実現に向けた活動の参考になることをねらい、これまで地域に密着して取り組んできたOJCの日本語教育の実績を記念誌としてまとめた。
邑久町の国際交流を推進する会(DBOC)	国際理解のための料理教室等ツデーセミナー	留学生と地域住民が料理教室を通じて交流し、国際理解を深めた。
NPO法人こくさいこどもフォーラム岡山	第5回高校生懸賞論文	グローバル人材育成を目的に高校生の論文を募集し、優秀論文を表彰した。
ベトナム・フェスティバル実行委員会	第2回ベトナム・フェスティバル in 矢掛	ベトナムの文化紹介や料理の試食、ゲーム大会を通じてベトナム出身の住民と地域住民の交流を図った。
笠岡国際交流協会	韓国料理教室	韓国講師の指導のもと、外国人と日本人が交流をする韓国料理教室を開催した。
美作国際交流をすすめる会	美作国際ボランティアプロジェクト	外国人青年ボランティアを受け入れ、美作市内の環境美化活動、地域住民との文化交流活動等を目的とした美作ワークキャンプを実施した。
NPO法人国際協力研究所・岡山	サンノゼ・シリコンバレー親善大使受け入れ事業	サンノゼ、シリコンバレー親善大使受け入れ事業を行った。
漢字道場	外国籍児童のための日本語教室開催	小・中学校に通う外国籍児童・生徒を対象に、漢字習得を中心に日本語学習の指導をした。

平成30年度「日本語教室開設・活動支援」事業報告

在住外国人の日本語学習活動を支援するため、下記団体に助成を行いました。

団体名	事業名	実施内容
倉敷日本語教室	日本語指導者スキルアップ講座	日本語能力試験N3の読解を中心に、実践的な指導方法について学ぶ講座を開催した。

日本語講座

講座を希望する方は、岡山国際交流センター1階、
情報相談コーナーでお申し込みください。

- と き 火曜日 10:00~11:40 / 18:30~20:10
水曜日 10:00~11:40 / 18:30~20:10
木曜日 10:00~11:40
金曜日 10:00~11:40
土曜日 15:10~16:50
- ところ 岡山国際交流センター 6階 会議室
- 受講料 無料(ただし、ジャパニーズクラス会員
(会費2,000円)に入会が必要です)
- 定員 入門~中級、各講座25名
- その他 1人2講座まで



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

インドネシア語講座

インドネシア語は世界で最もやさしい言語の一つと
いわれ、初心者でも安心して受講できます。

- と き 初級:土曜日 13:00~14:45
- ところ 岡山国際交流センター 6階 会議室
- 講師 県内在住インドネシア出身留学生
- 受講料 15,000円(1年間、テキスト代別)
- 定員 25名
- 共催 岡山インドネシア友好協会
- 申込み 岡山インドネシア友好協会 谷本氏
TEL:086-277-0329 / 090-1181-0754



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

韓国語講座

韓国の生活や文化・習慣への理解を深めましょう。

- と き 入門:第1・3水曜日 18:30~19:40
初級:第2・4金曜日 18:30~19:40
会話:第1・3金曜日 18:30~19:40
- ところ 岡山国際交流センター 4階図書資料室
- 対象 入門:韓国語を初めて学習する方
初級:韓国語の文字を覚えている方、入門段階を終えた方
会話:簡単な文法を覚えて自分の感情が話せる方
- 受講料 8,000円(協会会員)、10,000円(一般)(全20回、テキスト代別)
- 定員 各25名(要申込み)
- 申込み 企画情報課(4月15日(月)受付開始)



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

中国語講座

講師はとても親しみやすく、学習目的に合わせた楽し
い授業です。

- と き 入門:土曜日 17:40~19:10
初級:土曜日 19:20~20:50
中級:日曜日 17:00~18:30
上級A:土曜日 10:00~11:30
上級B:日曜日 10:00~11:30
- ところ 岡山国際交流センター 6階会議室
- 講師 県内在住中国出身留学生
- 受講料 高校生以下 13,000円、大学生・社会人・協会会員 15,000円
一般 18,000円(6か月間、テキスト代別)
- 定員 各16名 ●共催 岡山県華僑華人総会
- 申込み 岡山県華僑華人総会事務局
TEL:086-201-1076(月~金10:00~17:00)



こちらのQRコードを
読み取り、動画を
ご覧ください。

EVENT CALENDAR

イベントカレンダー

※都合により、内容が変更になる場合があります。
あらかじめご了承ください。



5月

18日(土) おかやまフェアトレードデー!

県内の活動団体によるポスターセッション、有識者による講
演会、ワークショップなどを予定しています。

- と き 2019年5月18日(土)
- ところ 岡山国際交流センター
- 問合せ 企画情報課(4月中旬受付開始)

6月

15日(土) 留学生と県民との交流会

県内在住の留学生が、文化や習慣などを紹介します。

- と き 2019年6月15日(土)(予定)
- ところ 岡山国際交流センター 7階 多目的ホール
- 参加費 協会会員・外国人・高校生以下 無料、一般:500円
- 定員 30名(要申込み)
- 申込み 企画情報課(5月中旬受付開始予定)

会員募集

一般財団法人岡山県国際交流協会では会員を募集しています。

☆会員の特典

- 会報誌「おかやま国際交流」による国際交流情報の提供(年4回)
- メールマガジンの配信(月1回)
- 協会主催事業への参加費割引(団体会員は1団体2名までを割引)
- 入会時に記念品をプレゼント

☆年会費

個人会員: 2,000円 団体会員: 10,000円
賛助会員: 30,000円

☆申込み・問合せ 総務課まで

TEL:086-256-2000 ※9:00~17:30(月~土曜日)

E-mail:kokusai@opief.or.jp



お知らせ

図書資料室(岡山国際交流センター 4階)の開館時間を2019年4月1日から、10:00~19:00 ⇒ 10:00~17:00に変更いたします。

問合せ

一般財団法人岡山県国際交流協会

企画情報課 企画情報班

☎086-256-2914 (月~土 9:00~17:00)

総務課 ☎086-256-2000 (月~土 9:00~17:30)

会議室等の予約 受付管理班 ☎086-256-2905 (9:00~18:00)

[休館日]12月29日~1月3日及び臨時休館日(ただし日曜日は貸室業務以外休み)

編集・発行

〒700-0026 岡山市北区奉還町2-2-1

岡山国際交流センター内

一般財団法人岡山県国際交流協会

☎086-256-2000(月~土 9:00~17:30)

☎086-256-2226

ホームページ: <http://www.opief.or.jp>

Facebook: <https://www.facebook.com/coolopief/>

Twitter: https://twitter.com/opief_okayama

E-mail: kokusai@opief.or.jp

協会HP

